

なく二俣。ここから下の道跡まで続く  
踏跡に上がって、下降終了とする。

(配・5)

[タイム] 下降開始(11:30)→終了(12:  
:25)

### 井戸沢

1984年8月4日

草薨沢を井戸沢出合まで、クモの巣  
に悩まされながら歩く。水も少なく、  
河原歩きである。所々踏跡がみられた。

9:35井戸沢出合。ここらは伐採・植  
林されている。

井戸沢に入ると、すぐに兩岸が狭ま  
り、最初の滝3m。何なく越えて先に  
進む。

左側から滝となって支沢が合流した  
あとは、5m前後の滝の連続となる。

ここを過ぎると、伐採によってヤブがひどくなった中を苦勞して進まねばならな  
くなる。その伐採地も、ナメが出てきたあたりで終わりとなった。

小滝をまじえたナメを遡ると、水も少なくなってくる。最後の華をかざるように  
10m二段の滝があった。

水もなくなり、尾根に向けて上がってゆくと、カモシカに出合った。しばらく一  
緒に尾根に向けて上がる。尾根にて現在地を確認して、草薨沢の下降点へと歩く。

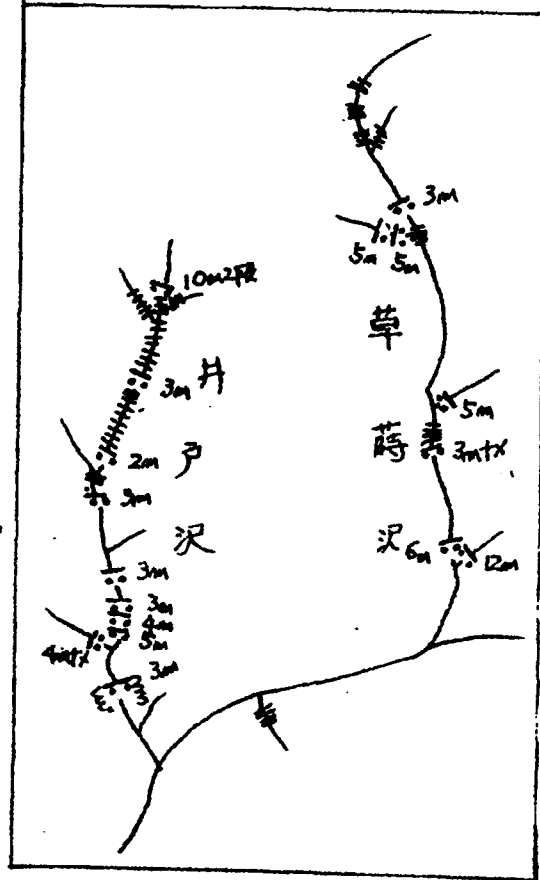
(配・

[タイム] 井戸沢出合(9:35)→終了(11:50)

### 馬道沢

1984年8月4日

林道ぞいの何もない沢とわかっていても、地域研究を進めてくるうちに入らざる  
をえなくなってくる沢のひとつがこの馬道沢である。水はかすかに流れている程度。



5mのナメ滝がわずかに華をそえているだけの沢である。

小滝2つを越えてゆくと、沢は湿地に入り、その先は伐採地とな  
ってヤブがひどくなる。苦勞してここを抜けるとすぐに道路へ出た。

「ここらあたりの沢で一番苦勞することは？」と聞かれたなら、伐  
採地のヤブを一番にあげることだろう。そんな感じを強くもつ沢で  
ある。  
(記・尖戸幸勝)

【タイム】 馬道沢出合(12:40)→終了(13:00)

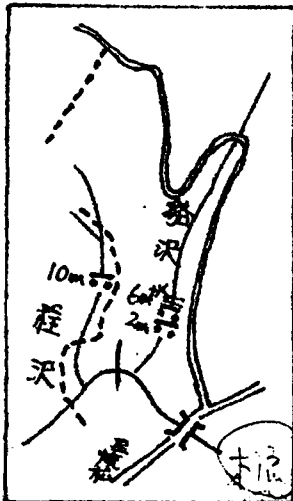
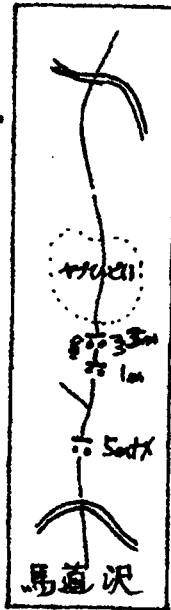
絡沢

1984年6月9日

L

橋から少し下って絡沢に入る。15:00進行開始。

最初からチロチロした流れの中を進む。そしてすぐヤブとな  
った。小滝と6mのナメ滝を越えると、沢はナメとなり、わきの道路とほぼ同じ高  
さとなる。水がなくなる所までつめて、道路に上がる。  
(記・



【タイム】 絡沢出合(15:00)→進行終了(15:15)

程沢

1984年6月9日

L

ヤブの急斜面を下って程沢へ。杉林の中に入ると、水が  
出てきた。右より支沢が合流した先に10mの滝。左の踏跡  
を使って下る。すぐに本流。何もない沢だ。

(記・

【タイム】 下降開始(15:35)→終了(15:50)

大滝川左俣・右俣

1984年7月7日

入る前から滝はないだろうと考えていたが、予想通り何もない沢だった。  
不動沢との出合から右岸の道を歩く。道が沢を横切る所から入換。支沢がいくつ  
か入り、小滝もいくつか越えて進むと、やがて二俣。本流の左俣に入る。  
ナメと3mの小滝を越えると、あとは何もない。水線に導かれてとにかくつめて